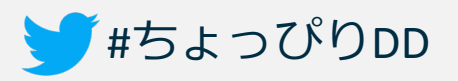


SAの今月のお勧め 分間アップデート

アップデートはどこで確認できますか？



<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/tag/週刊aws/>

<https://aws.amazon.com/jp/new/>

aws お問い合わせ サポート アカウント AWS アカウントを作成

製品 ソリューション 料金 ドキュメント 学ぶ パートナーネットワーク AWS Marketplace カスタマー支援 イベント さらに詳しく見る

ブログホーム カテゴリ エディション Search Blogs

Amazon Web Services ブログ

Tag: 週刊AWS

週刊AWS - 2021/2/15週
by Masato Kobayashi | on 22 FEB 2021 | in General | Permalink | Share

みなさん、こんにちは。AWSソリューションアーキテクトの小林です。先週のアップデートを振り返っていきましょう。

Read More

週刊AWS - 2021/2/8週
by Akira Shimosako | on 15 FEB 2021 | in General | Permalink | Share

みなさん、こんにちは。ソリューションアーキテクトの下佐粉です。今週も週刊AWSをお届けします。エンジニアのための施設AWS Loft Tokyoは現在休館中ですが、Loftで実施していた対面式の技術相談コーナーであるAsk an Expertが、現在はオンラインで参加いただけるようになっています。そして、今週初の試みとしては2/19(金)にDB、分析、コンテナのエキスパートが終日相談に応じるSpecial Expert Dayを実施する事になりました。私は13時、14時、15時台に当番しておりますので、データレイクやDWH on クラウドで相談したいことがありましたら、ぜひこちらの案内に従ってご参加ください。(なお利用にはAWS Loft Appが必要ですが、まだ登録されていない場合、利用登録には約5営業日程度かかりますのでご注意ください) それでは、今週の主なアップデートについて振り返っていきましょう。

Read More

週刊AWS - 2021/2/1週
by Masato Kobayashi | on 08 FEB 2021 | in General | Permalink | Share

みなさん、こんにちは。AWSソリューションアーキテクトの小林です。秋ぐらいに健康作りのために運動を始めた、というポストをしました。自分自身の今までの傾向としては、2ヶ月くらいでブームが過ぎ去って飽きてしまうパターンが多かったのですが、今回はなんとか継続することができています。今回継続できている理由は、モニタリングをしっかりやっていることなのか、となんとなく思っています。Bluetoothでデータを吸い上げアプリで可視化できる体組成計と血圧計を購入し、毎日データを取るようになりました。また、フィットネストラッカーを利用して運動量をトラッキングしています。これらによって日々の状況を把握し、運動量が不足していそうなら素早くアクションをとることができます。平日頃からのモニタリングと可視化が大事なんだな、という実感を覚えている今日この頃です。

Read More

週刊AWS - 2021/1/25週
by Akira Shimosako | on 01 FEB 2021 | in General | Permalink | Share

みなさん、こんにちは。ソリューションアーキテクトの下佐粉です。今週も週刊AWSをお届けします。すっかり寒くなりましたね。私の場合、ゲームを空回しで遊ぶのを減らす機会が少なくなりました。ありがとうございます。

aws お問い合わせ サポート 日本語 アカウント 今すぐ無料サインアップ

製品 ソリューション 料金 ドキュメント 学ぶ パートナーネットワーク AWS Marketplace カスタマー支援 イベント さらに詳しく見る

AWS の最新情報

AWS は、お客様が最新のテクノロジーを利用して実験し、より迅速に革新できるように、新しい機能を絶えず追加しています。最新情報記事は、AWS がそれをどのように実現しているかをお伝えするもので、AWS のすべてのサービス、機能、およびリージョンの拡大発表がリリースされるたびに、それらの概要を提供します。

AWS 最新のイノベーションについては、以下のページをご覧ください。

RSS フィードで購読する 2021年の発表をすべて表示する

注目の発表 | 最近の動画 | すべての発表 | その他の資料

aws INNOVATE AI / 機械学習の最新情報や導入事例、ベストプラクティスを AWS のエキスパートが解説

2/24 (水) オンラインで無料開催！相談コーナーもご用意。 [詳細を見る >](#)

今週注目の発表

AMAZON CLOUDFRONT SECURITY SAVINGS BUNDLE のご紹介	AMAZON VIRTUAL PRIVATE CLOUD (VPC) で ELASTIC IP アドレスのリバース DNS のカスタマイズが可能に	AMAZON S3 で AWS PRIVATELINK のサポートを開始
本日、Amazon CloudFront Security Savings Bundle を発表します。これは、1年間にわたって月間最低使用量を確保いただくことと引き換えに、CloudFront の請求額を最大 30% 節約できる柔軟なセルフサービスの料金プランです。	Amazon Virtual Private Cloud (VPC) では、Elastic IP (EIP) アドレスのリバースドメインネームシステム (DNS) ルックアップを簡単にセットアップして、Eメールの配信性を向上させることができます。	Amazon S3 は AWS PrivateLink のサポートの提供を開始し、仮想プライベートネットワーク内のプライベートエンドポイントを通じて S3 に直接アクセスできるようになりました。
2021年2月5日	2021年2月3日	2021年2月2日



高性能で費用対効果の高い深層学習トレーニング用の Amazon EC2 Trn1 インスタンスを発表

投稿日: Oct 10, 2022

AWS から、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) Trn1 インスタンスの一般提供開始をお知らせします。Amazon EC2 Trn1 インスタンスには、クラウドでの高性能 ML トレーニング用に構築された AWS Trainium チップが搭載されています。Trn1 インスタンスは、AWS での一般的な自然言語処理 (NLP) モデルの深層学習 (DL) トレーニングで最高のパフォーマンスを発揮し、同等の GPU ベースの EC2 インスタンスよりもコストが最大で 50% 削減されます。Trn1 インスタンスの使用を開始するには、PyTorch や TensorFlow などの一般的な ML フレームワークを使用します。これにより、トレーニングコストの削減、トレーニング時間の短縮、イテレーションの高速化による革新的なモデルの構築、生産性の向上が可能になります。EC2 Trn1 インスタンスを使用すると、音声認識、レコメンデーション、不正検出、画像と動画の分類、予測などの幅広い用途にわたって、自然言語処理 (NLP)、コンピュータービジョン、レコメンダーモデルをトレーニングできます。

Trn1 インスタンスは、最大 16 個の [AWS Trainium](#) チップを備えています。これは、[AWS Inferentia](#) の後に AWS によって構築された第 2 世代の ML チップです。Trn1 インスタンスは、最大 800 Gbps の Elastic Fabric Adapter (EFA) ネットワーク帯域幅を備えた最初の EC2 インスタンスです。効率的なデータとモデルの並列処理のために、Trn1 インスタンスには 512 GB の高帯域幅メモリが搭載されており、最大 3.4 ペタフロップスの FP16/BF16 コンピューティング能力を備えています。インスタンス内の高帯域幅ノンブロッキング相互接続である NeuronLink も装備されています。大規模な深層学習モデルをサポートするため、Trn1 インスタンスが EC2 UltraCluster にデプロイされます。UltraClusters を使用して、最大 30,000 の Trainium アクセラレータに拡張できます。これはノンブロッキングのペタビットスケールネットワークに相互接続されており、6.3 エクサフロップスのコンピューティング能力を持つスーパーコンピューターにオンデマンドでアクセスできます。Trn1 インスタンスでは、新しい Configurable FP8、動的入力形状、制御フロー、C++ カスタム演算子、確率的な丸め処理など、幅広いデータ型がネイティブでサポートされています。[AWS Neuron SDK](#) では、これらの高度な機能のロックが解除され、ジャストインタイム (JIT) コンパイルと Eager Debug モードのサポートが追加されます。AWS Neuron は、PyTorch、TensorFlow、Megatron-LM、Hugging Face、PyTorch FSDP などの主要な ML フレームワークおよびライブラリと統合されているため、既存のフレームワークを引き続き使用し、最小限のコード変更でアプリケーションを実行することができます。

参考ページ

「高性能で費用対効果の高い深層学習
トレーニング用の Amazon EC2 Trn1
インスタンスを発表」

<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2022/10/ec2-trn1-instances-high-performance-cost-effective-deep-learning-training/>

より高速なデータベースフェイルオーバーを実現するアマゾン ウェブ サービスの PostgreSQL 向け JDBC ドライバーが利用可能に

投稿日: Oct 7, 2022

AWS の PostgreSQL 向け JDBC ドライバーの一般提供が開始され、Amazon RDS または Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションのデータベースクラスターで使用できるようになりました。このラップードライバーは [PostgreSQL コミュニティドライバー](#) と連携するよう設計されていて、Aurora PostgreSQL などのクラスター化データベースのフェイルオーバーをより取り扱いやすくします。AWS の PostgreSQL 向け JDBC ドライバーは既存のアプリケーションとドロップイン互換であるため、コミュニティドライバーと併せてフェイルオーバー機能を追加してアプリケーション変更の必要性を低減させます。以前にプレビュー版としてスタンドアロンの AWS の PostgreSQL 向け JDBC ドライバーがリリースされていましたが、今回のリリースで差し替えになります。

このラップードライバーはデータベースクラスターのステータスをモニタリングし、クラスターのトポロジをキャッシュすることで、フェイルオーバー時間を最小限に抑えます。次に、ノードに障害が発生した場合の DNS 名解決の速度を向上させるためにキャッシュが使用され、フェイルオーバー時間が数分から数秒に短縮します。Apache License v2 を使用するオープンソースプロジェクトで、Maven、Gradle、jar ファイルを使用してインストールできます。

AWS の PostgreSQL 向け JDBC ドライバーが IAM データベース認証をサポートします。ドライバーのダウンロードおよび機能のリクエストは、[GitHub のプロジェクトにアクセス](#)してください。

参考ページ

「より高速なデータベースフェイルオーバーを実現するアマゾン ウェブ サービスの PostgreSQL 向け JDBC ドライバーが利用可能に」

<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2022/10/aws-jdbc-driver-postgresql-faster-database-failover/>

Amazon EC2 C6gn インスタンスが追加のリージョンで利用可能に

投稿日: Oct 12, 2022

本日より、Amazon EC2 C6gn インスタンスがアジアパシフィック (大阪) リージョンでご利用いただけるようになりました。

[AWS Nitro System](#) をベースにした C6gn インスタンスは、Arm ベースの AWS Graviton2 プロセッサを搭載し、最大 100 Gbps のネットワーク帯域幅を備えています。ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC)、ネットワーク仮想アプライアンス、データレイク、データ分析などの高いネットワーク帯域を必要とするアプリケーションに対して、同等の現行世代の x86 ベースのネットワーク最適化インスタンスと比べて料金/パフォーマンスが最大 40% 向上しています。これらのインスタンスは、HPC や動画処理などのワークロードに Elastic Fabric Adapter (EFA) を利用できます。これにより、大規模クラスターのメッセージパッシングインターフェイス (MPI) を使用してネットワークレイテンシーを短縮できます。これらのインスタンスでのワークロードは、Amazon Virtual Private Cloud (VPC) のセキュリティ、スケーラビリティ、信頼性を引き続き活用できます。

C6gn インスタンスは、[AWS マネジメントコンソール](#)、[AWS コマンドラインインターフェイス \(CLI\)](#)、および [AWS SDK](#) から開始できます。詳細については、[AWS Graviton のページ](#)、[C6g のページ](#)、または[開始方法についての Github のページ](#)をご覧ください。

参考ページ

「Amazon EC2 C6gn インスタンスが追加のリージョンで利用可能に」

<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2022/10/amazon-ec2-c6gn-instances-now-available-additional-region/>

AWS Glue で Git との統合が可能に

投稿日: Oct 13, 2022

[AWS Glue](#) は、広く使用されているオープンソースのバージョン管理システムである Git との統合が可能になりました。AWS Glue は、再利用可能なジョブを使用して、どんな規模のデータセットに対して抽出、変換、ロード (ETL) タスクを実行できるサーバーレスデータ統合サービスです。この機能により、お客様は GitHub と [AWS CodeCommit](#) を使用して [AWS Glue](#) ジョブの変更履歴を管理し、既存の DevOps プラクティスを適用してそれらのジョブをデプロイできます。これまでは、コードバージョン管理システムを使用して独自の統合をセットアップし、開発環境から運用環境にジョブを移行するためのツールを構築する必要がありました。

AWS Glue での Git 統合は、ビジュアルタイプでもコードベースタイプでも、あらゆるタイプの AWS Glue ジョブに対して機能します。GitHub と AWS CodeCommit の両方との統合が組み込まれており、Jenkins や [AWS CodeDeploy](#) などの自動化ツールを利用した AWS Glue ジョブのデプロイも簡単にできます。この機能により、手動でのジョブのダウンロードおよびアップロードも可能になります。最後に、AWS Glue Studio のビジュアルエディタにより、データソースとターゲットのパラメータ化がサポートされるようになったため、新しいアカウントへのジョブのデプロイ時にこれらの更新ができます。

詳細については、[ドキュメント](#)、[ブログ投稿](#)、[デモビデオ](#)をご覧ください。

この機能は、AWS Glue が利用できるすべての商用 [AWS リージョン](#) で利用可能です。

参考ページ

「[AWS Glue で Git との統合が可能に](#)」

<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2022/10/aws-glue-git-integration/>

第二十四回 「アップデート紹介とちょっぴり Dive Deep する AWS の時間」

2022年11月24日（木） 16:00 - 18:00 オンライン開催（ライブ）

Developer 向けサービス特集編 11/24（木） 16:00～18:00

お申し込みページはこちら

<https://pages.awscloud.com/APAC-field-OE-JP-ISV-CH-DD-20221124-reg-event.html>



© 2022, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.



Thank you!

